

本タスクフォースにおける検討の視点(案)について

平成 28 年 4 月 6 日
事 務 局

本タスクフォースにおける検討の視点(案) IoT関連部分

検討事項の例

IoTの進展を背景に、今後、多様な端末やサービス間で大量のパーソナルデータが取得・流通・活用することが想定されるが、パーソナルデータの適切な保護を図りながらデータの自由な流通を推進するという観点から、本TFでは、以下の事項について、最新の動向を把握つつ、課題の抽出・整理及び対応方策の方向性について議論を行う。

- パーソナルデータやその利用目的の多様化・複雑化等に伴い、利用者に対する説明・同意取得がますます重要になると考えられるが、**利用者に信頼されるプライバシーポリシーや同意取得のあり方**についてどのように考えるべきか。そもそも有効な同意取得が困難になる場合もあるのではないか。また、**利用者が自らのパーソナルデータを管理**するという視点からは、どのような方策が考えられるか。
- 今後、パーソナルデータの取扱いについてより多くの事業者が関与することになるが、**情報の帰属(誰の情報をどのような権限で誰が管理するのか)と責任分界(どこまでが誰の責任か)**について、どのように考えるべきか。
 - **利用者も含めた関係者間のルール**をどのように確立すべきか。例えば、個別分野ごとに、関係者が集うマルチステークホルダープロセスを活用することが有効であり、ニーズが高い分野について速やかに取り組むべきなのではないか。
 - **個人情報**が収集され、**流通される基盤の信頼性**について、何らかの担保措置が必要ではないか。
- データの自由な流通を確保しつつ、プライバシー保護を支援する取組に係る**技術について、どのような動向があるか。**
- 公益性の高い目的のために有用に活用され得る情報もあると考えられるが、**公益性とプライバシー保護のバランスについて、どのように考えるべきか。**
- **諸外国ではどのような取組**が行われており、その成果と課題はどうなっているか。
- その他、検討すべき事項や視点はありますか。